県ビルリフォーム協組・創立20周年記念式典

節目の年を盛大に

さらなる飛躍誓う

鹿児島県ビルリフォーム協同組合20周年記念

プライドを持ち業務に取り組みたい－などと挨拶する大平理事長＝鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで

県ビルリフォーム協同組合（大平重隆理事長）は28日、鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで創立20周年記念式典を開き、関係者約70人が出席して節目の年を盛大に祝うとともに、今後のさらなる飛躍を誓い合った。

記念式典では初めに、大平理事長がこれまでの20年を振り返り、組合設立当時のエピソードや、事業の沿革などを説明した後、「このようにして20周年を迎えることができましたのも、皆様方のご協力の賜物と感謝しております。これからも組合員一同力を合わせ30、40周年に向け、プライドを持って業務に取り組んでいきたいと考えています。今後ともご指導、ご協力をよろしくお願い致します」などと挨拶。

引き続き、来賓を代表して北真夫県土木部建築技監、角田正雄鹿児島市建築部長が「きょうを契機にさらなる活躍に期待します」、「安全・安心な街づくりと地域社会発展にご協力を」と、それぞれの立場から祝辞を寄せた。

次いで、感謝状の贈呈式が行われ、技術担当として長年にわたり役員を務めた池田晃範氏（㈱ジュシカ）に感謝状と記念品が贈られた。

また、式典に先立ち開かれた記念講演会では、「統一ピンネット工法の確立と品質管理体制について」と題し、熊本県ビルリフォーム協同組合の岡村貞博専務理事が講和を行った。

新役員は次の通り。

理事長＝大平重隆▽副理事長＝市坪孝志（㈱市坪建装）▽専務理事＝松岡直光（㈱松美研）▽理事＝夏迫文男（㈱夏迫塗装工業）四元勇一（㈱キョーワ・クオリティ）濵崎博文（㈲濵崎工業）▽監事＝池田晃範（㈱ジュシカ）米澤崇（米澤建設㈲）

通常総会も開催

大平理事長を再選　技能者育成など推進

なお当日は、同組合の「第20回通常総会」も行われ、統一ピンネット工法の技能者育成（プライベートライセンス試験の実施）等を柱とする新年度事業計画を決めたほか、任期満了に伴う役員改選では、大平理事長（大平工業㈱）の続投を決めた。

総会では、17年度事業報告および収支決算報告、18年度事業計画および収支予算案などを慎重に審議した結果、すべて執行部原案通り可決承認した。

新年度事業計画は、①開催等（総務委員会）②物件の外観調査の実施等（需要開発委員会）③統一ピンネット工法プライベートライセンス講習・試験の実施等（技術・技能委員会）④組合員受注物件の工事指導や安全パトロールの実施等（工事指導・安全委員会）－など。

高麗通線（Ⅱ期）安全祈願祭

工期内の安全祈願

森山肇組・茂建設・森山㈱組

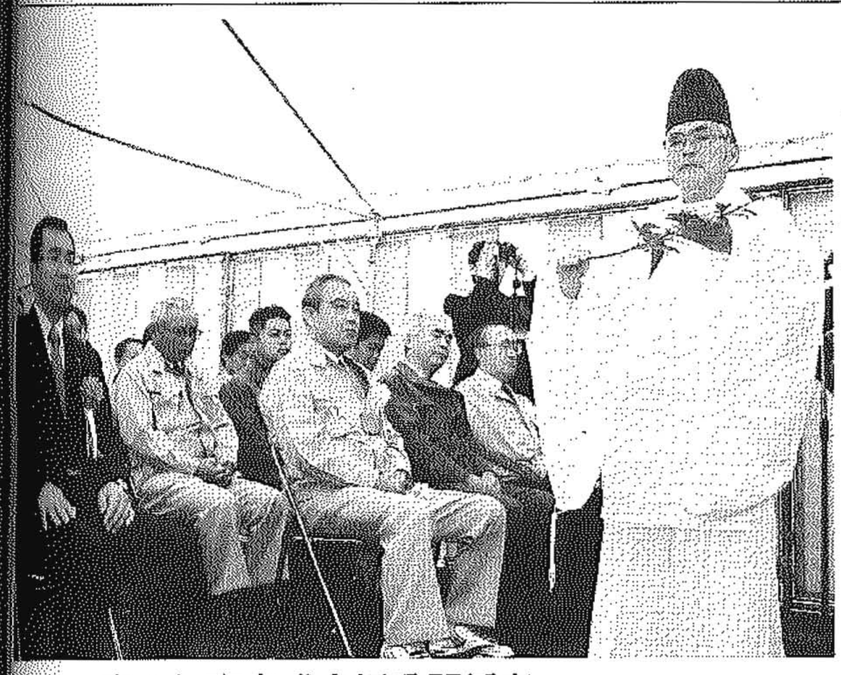
安全祈願祭」が28日、鹿児島市郡元町の新川右岸事業用地で行われ、森博[illegible]

㈱森山肇組（樋口憲二社長）、茂建設㈱（濵田勇社長）、森山㈱組（森山豊治社長）の3社主催の「都市計画道路高麗通線（Ⅱ期）道路築造工事係者約60人が出席し、工事の無事完成を祈った。

式では、祝詞奏上のあと玉ぐし奉てんが行われ、森市長や地域代表に続き施工者の樋口・濵田・森山の3氏が一人ずつ玉ぐしを捧げ、工期内の安全を祈願した。

同工事は、中郡交差点から紫原1丁目までの延長1190m（幅16m・2車線）で、狭あいな幅員と慢性的な交通渋滞の[illegible]

年の12月から着手しているもので、23年度の完成を目指す。総事業費は140億円。



工事の無事完成を祈る関係者＝鹿児島市郡元町の現地で

県板金塗装工業協組合同委員会

分科会で活動方針決定

県板金塗装工業協同組合（大平集一理事長）は24日、鹿屋市のさつき苑で県内各支部から約60人が参加して18年度合同委員会を開いた。5分科会では、災害防止対策、安全パトロール、資格取得、組合への加入促進やレクレーションなどが協議された。

冒頭、大平理事長が「残念なことに検定合格者が少なく技術の向上を目指してもらいたい。本日は、活発な審議をお願い」[illegible]意見を取りまとめていただきたい」と挨拶。

その後、参加者は安全委員会、塗装委員会、板金委員会、運動委員会、広報委員会の5分科会で講習会を実施。災害防止対策、安全パトロール、技能検定等資格取得、加入促進、レクレーションの開催、機関紙発行などを協議した。その結果を各委員長が全体会で報告し了承した。

大会後は、意見交換会を開き年一回の親睦を深めた。

分科会で熱心に討論する参加者＝鹿屋市の[illegible]

森林とふれあう旅ツアー

森林の役割を理解

県治山林道協会

県治山林道協会（加治屋義人会長）は26日、鹿児島市の復旧治山現場等で第6回「森林とふれあう旅」日帰りバスツアーを実施した。一般の22家族67人が参加し、森林の役割等について認識を深めた。

森林とふれあう旅は、治山・林道事業の現地視察を通じて森林の持つ水源かん養機能等の重要性とそれを守る山村の実態に触れ、森林の担う役割をより深く理解してもらうことを目的に毎年行っている。

当日は、初めに同市西佐多町の復旧治山現場を訪れた。鹿児島農林水産事務所森林土木課の柏木弥生林業技師が、山崩れ等の山地災害を防止する工事の役割等を解説し、参加者は熱心に聞いていた。次いで、蒲生町の林業試験場に移動し、橋口基由場長から研究内容等について説明を受けた。

その後、蒲生町有林では実際に専用道具を使って枝打ち体験を実施。最後のシイタケ狩りでは、参加者は秋の味覚をたくさん収穫し大満足の様子だった。

同行した協会の寺師健次専務理事は、「当協会は公益法人としてこの企画に取り組んでいます。おかげさまで毎年、参加者の方には喜んでもらい、リピーターの方もおられます。今後も趣向を凝らして、続けていきたい」と語った。

枝打ちに挑戦する子供たち＝蒲生町の現地で

コマツ木材破砕機体感フェア

県内外から100人参加

「コマツ西日本㈱主催の「コマツ木材破砕機新商品体感フェア」が21日、一社長、さつま町）の木くずリサイクルセンターであり、沖縄など県外を含む関係者約100人でにぎわった。

出展機種は、昨年モデルチェンジした自走式木材破砕機BR200Tはじめ型機種BR80T、前処理機のBR300S粗破砕仕様車等7機種。

会場を提供した下土橋社長は「コマツさんの新機種とともに自社のリサイクルの取り組みを見ていただければ」と、破砕設備や堆肥センター等を案内した。五百路誠コマツ西日本㈱鹿児島営業部長は「実演デモを現場でできるのは全国でも珍しく、大変助かりました」と話した。

薩摩川内市甑島の四隅仁思社長（㈱ヨスミ建設）は「最新鋭機や各社の取り組みなどを見る機会はなかなかないので、いい勉強になりました」と話した。

薩摩工務店リサイクルセンターで行われた[illegible]

購読料のお支払いはお手軽で便利な
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ